

安全で防災に強いまちづくりを!

「地震・津波・コンビナート災害を考えるシンポジウム」開催



日本共産党は6月24日、「地震・津波・コンビナート災害を考えるシンポジウム」を潮田地区センターで開催し、約100人の方々が参加しました。

避難対象区域図

神奈川県が想定した慶長型地震の津波による浸水予測区域(浸水深)

0m~0.15m	4.00m~5.00m
0.15m~0.50m	5.00m~6.00m
0.50m~0.80m	6.00m~7.00m
0.80m~1.20m	
1.20m~2.00m	本市の検証により
2.00m~3.00m	浸水の可能性が
3.00m~4.00m	あるとした区域

海拔5m~10mの区域
海拔10m以上の区域

※この図に示す浸水予測区域などは、シミュレーション結果によるものです。実際の津波発生時には、この図に示す浸水よりも、広い範囲が浸水したり、浸水域が大きくなる場合があります。



横浜市消防局HP「津波避難対策について」より

石油コンビナート災害から労働者と住民を守るために

梅枝裕一(日本共産党神奈川県委員会政策委員)

鶴見区は京浜臨海部の中心地域で、コンビナート災害を想定しないとイケない。気仙沼では港から3キロ離れた市街地の鹿折地区で10%もの大規模な延焼火災が発生した。

災害時における緊急医療

窪倉孝道(汐田総合病院院長)

災害時に地域の中小病院はどのように備えるべきなのか。災害時にどの程度の傷病で病院あるいは地域防災拠点で治療を受けるのかを、市民に知らせていかなければいけない。

横浜市防災対策の現状と課題

古谷やすひこ(日本共産党横浜市議員)

鶴見区には、津波警報伝達システムは1か所、避難ビルは8か所しかない。市の防災計画をどうやって市民に伝えていくかも問題がある。いまの効率優先の地域開発から、安全で防災に強い街づくりを進めていこう、引き続き頑張りたい。

会場から、「いざ津波が来てもどこに逃げていいのかわからない」「軟弱な地盤を前提で対策をとるべき」「緊急時にはどこでも医療がかけられるようにしてほしい」などなど、数多くの質問や要望が出されました。



古谷やすひこ

ふる や

日本共産党横浜市議員

●事務所: 〒230-0037 横浜市鶴見区潮田町2-120-2
●電話: 045-504-5121 ●FAX: 045-504-7331

市政報告写真NEWS 2012年夏号

あなたの声をなんでもお寄せ下さい。

- 鶴見の街づくり双方向サイト
検索してください
つるみボイス 検索
ブログからでも
古谷やすひこ 検索

●電話でもお待ちしています
無料生活相談もお電話で
携帯電話: 090-6528-9414

日本共産党
JAPANESE COMMUNIST PARTY

